

第5章 考察Ⅰ 松山平野出土の紡錘車

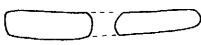
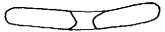


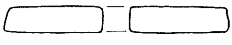





—— 断面形からみた谷町遺跡出土の紡錘車の位置づけ ——

1. はじめに

谷町遺跡の紡錘車は第Ⅴ層より出土した。第Ⅴ層は2次的な推積層と考えられるもので、弥生時代から古墳時代までの遺物を包含しており、年代幅が大きい。紡錘車は底面に同心円と線刻が施されており、松山平野では初例の出土で、貴重な資料である。よって、本稿では谷町遺跡出土の紡錘車の位置づけを行なうために、資料の収集をおこなってみた。

2. 時期区分と分類

集成は、弥生時代から古墳時代までの資料を取りあつかう。時期区分は、弥生時代では各期を前半・後半もしくは前葉～後葉に、古墳時代は前期～後期に区分した。

素 材 断面形	転 用 品	土 製 品	石 製 品
長 方 形	 	 	
台 形 状			  
紡 錘 形 状			

第66図 断面形状図

紡錘車の種類は土器片を転用したものを転用品、紡錘車として作られたものを土製品、石製のものを石製品として記述する。

紡錘車の断面形及び部位名称・法量については便宜上、第67図に示す呼称法をとる。

3. 各期の遺物について

1) 弥生時代前期

前期では転用品と土製品があり、転用品の出土が多い。両種とも縄文晩期終末から弥生前期前半に比定されている。断面形はともに長方形を呈するが、土製品は若干厚く、側面には丸味がある。

2) 弥生時代中期

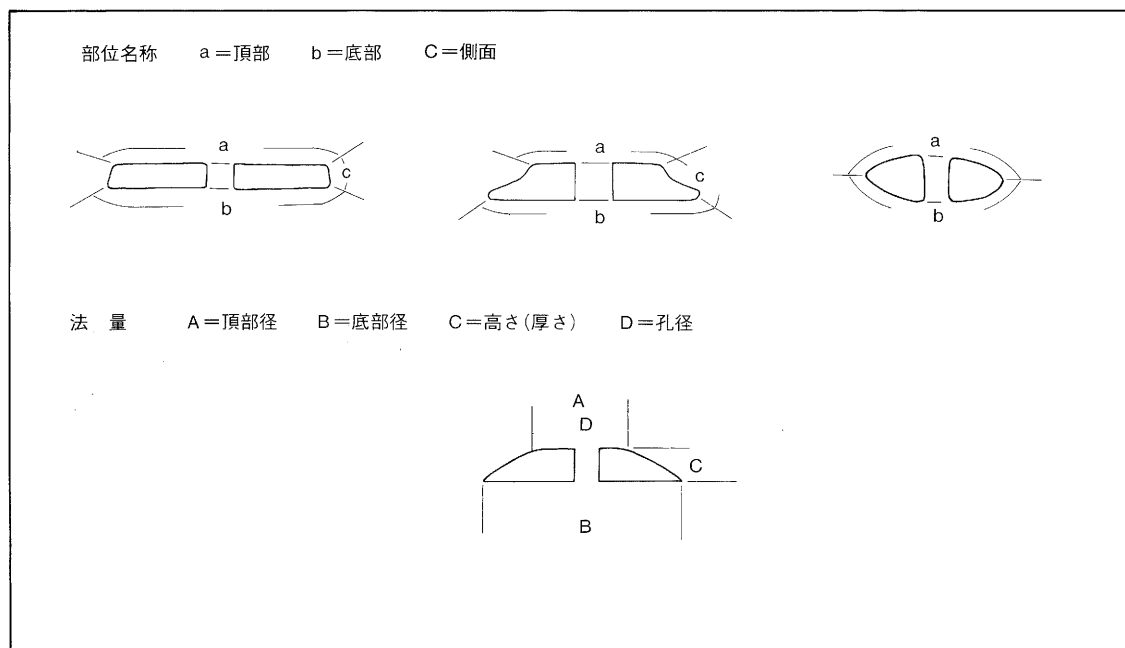
中期では転用品、土製品、石製品が見られ、前期より資料数は増加する。転用品の出土が多く、石製品、土製品の順となる。転用品は前期に比べ多少大きく、より円形に仕上げられ、断面の側面は丸いものが多い。石製品はほとんどのものが扁平な断面長方形を呈するが、1点だけ厚さが厚く断面形は中央部から端部にかけて三角形状を呈するものがある。石材は石英粗面岩のものが1点あるが、他は結晶片岩である。土製品は後葉に1点みられ、断面形は長方形を呈するが、中央円孔部分より側面部がやや薄く作られている。

3) 弥生時代後期

後期では転用品、土製品、石製品が見られる。土製品の出土が多く、石製品、転用品は少ない。土製品は前期・中期よりやや厚みが増し、断面形は長方形のものと、長方形ではあるが中央部より端部がやや薄くなるものが見られる。また、断面が著しく厚いものがある。石製品と土製品の断面形は長方形で、中期のものとはほぼ同じである。石製品の石材は緑色片岩・頁岩である。

4) 古墳時代

古墳時代では、土製品と石製品が見られる。土製品は大きさ、断面形とも多様である。断面形には



第67図 部位名称及び法量

長方形、台形状、紡錘形状の三種がある。石製品は中期に位置づけられるものがある。断面形はすべて台形状である。側面の形状が段をなすものと、なさないものとの2種類がみられる。石材は結晶片岩と蛇紋岩が1点ある。

以上、弥生時代から古墳時代までの様相を時期別に列記した。器種別にまとめると次のようになる。

①転用品は縄文晩期から出現し、弥生後期まで見られるが、弥生中期にピークをみる。平面形は時期が新しいほど円形に近く加工されている。断面形は土器の転用のため、いずれも扁平な長方形を呈する。

②土製品は縄文晩期終末から古墳時代まで見られるが、弥生後期にピークをみる。平面形はほぼ正円である。断面形は長方形のものと、紡錘形のものの2種類が混在するが、古墳時代では台形状が加わる。

③石製品は弥生時代中期中葉から古墳時代まで見られるが、弥生時代中期後葉と古墳時代中期に出土が多い。断面形は、弥生時代と古墳時代では大きく異なる。弥生時代はほとんどのものが長方形、古墳時代は台形状となり、さらに、台形状のものの側面には、段を有するものとそうでないものがある。なお、中央に穿たれる円孔には弥生時代中期から後期は頂部と底部の両方向から空けるものと、一方向からあけるものが混在する。両方向から空けられているもののうち1点は石包丁からの転用品と考えられている（第69図・23）。古墳時代は一方向からに限られる。石材は弥生時代は3種類と多量用されるが、古墳時代では2種類となる。そのほとんどは結晶片岩である。

石製品中（3－③項）では石庖丁からの転用品と考えられるものが1点あったが、今回の集成表では石製品に含めた。他県ではこの種のものの報告や分類がされている。今後はこの種の紡錘車の資料が増すと考えられ、転用品と本来紡錘車として作られたものとに分ける必要があるだろう。

4. 谷町遺跡出土の紡錘車の位置づけ

今回の資料の収集中には、出作遺跡SX01出土のものがある。断面形は台形状を呈し、側面は段を有さないもので、石材は結晶片岩である。谷町遺跡出土品は、法量に若干の差はあるものの、出作遺跡のものに酷似している。よって谷町遺跡出土の紡錘車は、古墳時代中期に位置づけられる。

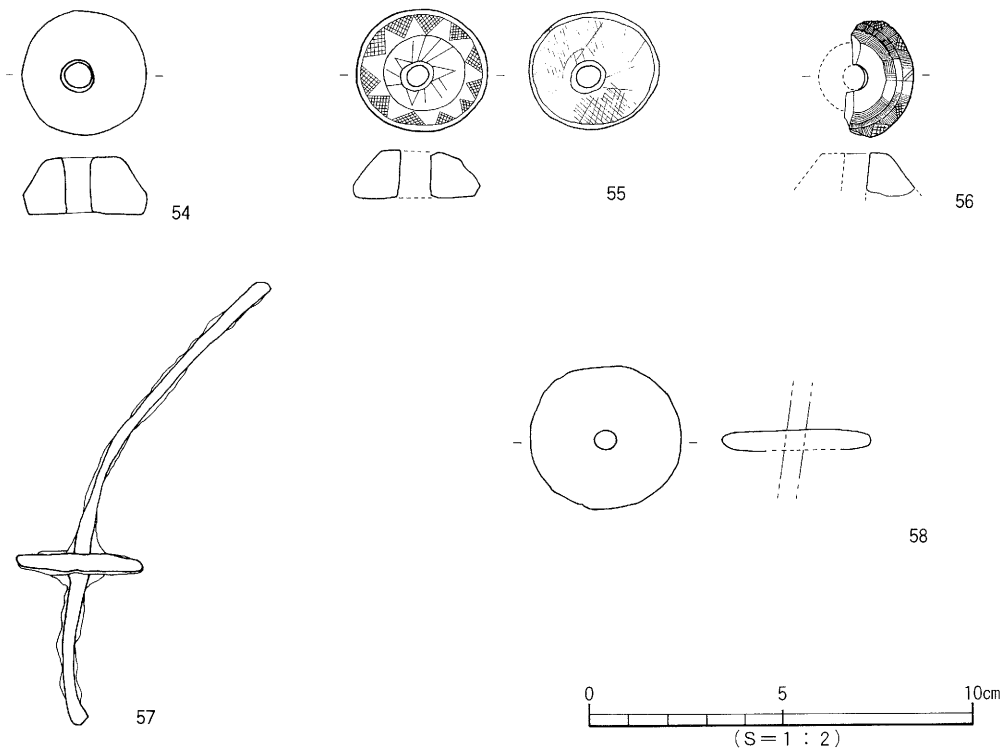
今回取り扱われなかったものとして、石製品で断面形が台形状を呈し、側面や上面に施文するものと、鉄製品がある。これらは時期幅が大きいことや時期不明であることから集成表には載せなかった。ただし、出土数が少なく、貴重なものと考えられるため、ここで参考資料として実測図を載せておく。

5. おわりに

今回は時間的な制約があり、わずかの資料の収集に終わってしまった。今後も資料数を増やすべく収集に努力していきたい。時期が特定された資料の増加により、集成表の空白部が満たされれば、より明確な紡錘車の変遷をみることができよう。

最後に谷町遺跡出土の紡錘車の石材鑑定を愛媛県立博物館学芸員千葉昇氏に行って頂いた。記して感謝申し上げます。また資料の収集・提供では当埋文センター栗田茂敏調査員、相原浩二調査員、武正良浩調査員、山之内志郎調査員に、収集及び作図・浄書は加島なおみ、関正子、玉井順子、豊田直美、

考 察



No.54~56石製品, No.57・58鉄製品

第68図 遺物実測図 (参考資料)

萩野ちよみ、福島利恵、吉井信枝 (敬称略)に協力を得た。

紡錘車出土遺跡及び文献一覧 (文頭Noは集成図Noに対応する)

- 1～5・7・8 中寺州尾遺跡 大滝雅嗣 1989 一般国道196号今治道路埋蔵文化財調査報告書Ⅱ
- 6 大湖遺跡 栗田茂敏 1989 松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ
- 9 宝泉遺跡Ⅰ 井手窪理 1989 県営圃場整備事業(川内地区)埋蔵文化財調査報告書
- 10・17 明穂東岡Ⅱ遺跡 多田仁他 1995 四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書X小松町編Ⅲ
- 11～14・24 明穂中ノ岡Ⅲ遺跡 多田仁他 1995 四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書X小松町編Ⅲ
- 15・16 医王寺Ⅰ遺跡 中野良一 1991 四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ
- 18・19 大峰ヶ台遺跡(第4次調査) 栗田茂敏 1995 松山市文化財調査報告書48
- 20・22・26・30・38・41・54・58 松山大学構内遺跡Ⅱ(第3次調査) 宮内慎一 1995 松山市文化財調査報告書49
- 21 第3節朝倉下岡遺跡 作田一耕他 1987 埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集
- 23 祝谷六丁場遺跡 宮崎泰好他 1991 松山市文化財調査報告書24
- 25 平坂Ⅱ遺跡 作田一耕他 1991 四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ
- 27・29・31・42 文京遺跡(第10次調査) 宮本一夫 1991 愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ
- 28 長尾遺跡 湖西一成他 1995 四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XⅠ伊予市編Ⅰ
- 32 朝倉南甲遺跡 岡田敏彦他 1986 埋蔵文化財発掘調査報告書17
- 33 松山市久米窪田Ⅴ遺跡 阪本安光 1981 一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅲ
- 34・35・37・43 松山大学構内遺跡(第2次調査) 梅木謙一 1991 松山市文化財調査報告書20
- 36 拾町Ⅱ遺跡 岡田敏彦 1980 一般国道33号砥部道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ
- 39 東本遺跡4次調査(4区) 高尾和長 1996 松山市文化財調査報告書54

松山平野出土の紡錘車

- 40 福音寺地区筋違F遺跡 梅木謙一 1996 松山市文化財調査報告書52
 44 東本遺跡4次調査(3区) 高尾和長 1996 松山市文化財調査報告書54
 45 桑原田中遺跡 松村 淳 1994 松山市文化財調査報告書26
 46・48・49 出作遺跡Ⅰ 谷若倫郎 1993 出作圃場整備事業埋蔵文化財調査報告書
 47 福音寺地区筋違H遺跡 武正良浩 1996 松山市文化財調査報告書52
 50 谷町遺跡(第Ⅴ層)出土
 51～53 福音小学校構内遺跡 武正良浩 1991 松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ(資料提供)
 55 来住Ⅵ遺跡 吉本拓他 1981 一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書
 56 若草町遺跡(第3次調査) 相原浩二・河野史知 1994 松山市埋蔵文化財調査年報Ⅵ(資料提供)
 57 座拝坂遺跡 松村淳・梅木謙一 1993 和気・堀江の遺跡 松山市埋蔵文化財調査報告書36

表34 松山平野出土の紡錘車

(調査：1997年1月) (1)

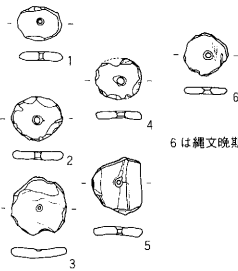
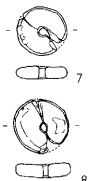

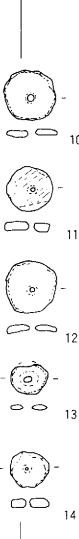
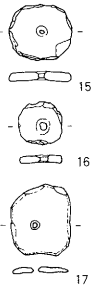
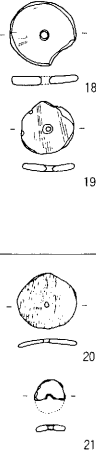
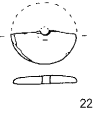
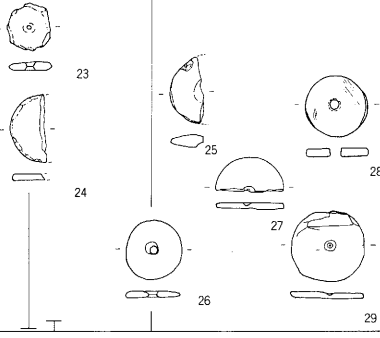
番号	遺 跡 名	出 土 地	素 材	断面図	法 量				備 考
					直径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重さ (g)	
1	中寺州尾 (10調査区)	1号溝状	転 用 品	長方形	3.5	(0.7)	0.3	(6.9)	
2	中寺州尾 (10調査区)	1号溝状	転 用 品	長方形	4.0	0.7	0.4	8.4	
3	中寺州尾 (10調査区)	1号溝状	転 用 品	長方形	4.5	0.8	0.3	(14.1)	
4	中寺州尾 (10調査区)	1号溝状	転 用 品	長方形	3.4	0.7	0.4	7.4	
5	中寺州尾 (10調査区)	1号溝状	転 用 品	長方形	4.5	0.6	0.3	11.9	
6	大湊	A区	転 用 品	長方形	3～3.2	0.5	0.4	5.4	
7	中寺州尾 (10調査区)	1号溝状	土 製 品	長方形	3.8	1.0	0.4	(13.1)	焼成前穿孔
8	中寺州尾 (10調査区)	1号溝状	土 製 品	長方形	4.2	1.0	0.3	(19.7)	焼成前穿孔
9	宝泉	竪穴式住居跡	転 用 品	長方形	3.0	0.5	0.2		
10	明穂東岡Ⅱ	包含層	転 用 品	長方形	4.2	0.6	0.6	8.6	
11	明穂中ノ岡Ⅲ	1号住居	転 用 品	長方形	3.5	3.5	0.3	8.9	
12	明穂中ノ岡Ⅲ	1号住居	転 用 品	長方形	3.9	0.7	0.3	10.4	
13	明穂中ノ岡Ⅲ	1号住居	転 用 品	長方形	2.9	2.4	0.6	3.0	
14	明穂中ノ岡Ⅲ	22号土坑	転 用 品	長方形	3.0	0.7	0.3	6.1	
15	医王寺Ⅰ		転 用 品	長方形	5.0	0.8	0.4	21.0	
16	医王寺Ⅰ		転 用 品	長方形	3.3	0.6	0.5	5.5	
17	明穂中ノ岡Ⅱ	土器溜り	転 用 品	長方形	5.5	0.5	0.4	17.6	
18	大峰ヶ台 (第4次)	包含層	転 用 品	長方形	5.0	0.7	0.6	18.8	
19	大峰ヶ台 (第4次)	SB-12	転 用 品	長方形	4.2	0.5	0.4	9.8	両面穿孔
20	松山大学構内 (第3次)	SR-1下層下部	転 用 品	長方形	4.7	0.4	0.4		
21	朝倉下岡	第2号住居	転 用 品	長方形	5.0	0.5	(0.4)	(2.5)	
22	松山大学構内 (第3次)	SR-1下層下部	土 製 品	長方形	5.0	0.6	0.6		
23	祝谷六丁場		石 製 品 (結晶片岩)	長方形	3.4	0.7	0.5	14.4	石庖丁の転用品
24	明穂中ノ岡Ⅲ	7号土坑	石 製 品 (緑泥片岩)	長方形	2.8	0.6	—	17.7	未製品

考 察

松山平野出土の紡錘車

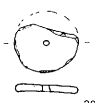








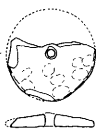
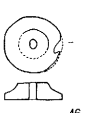





(2)

番号	遺 跡 名	出 土 地	素 材	断面図	法 量				備 考
					直径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重さ (g)	
25	平坂Ⅱ	4号土坑	石 製 品 (凝 灰 岩)	長方形	5.1	1.2	—	(18.3)	未製品
26	松山大学構内 (第3次)	下層下部	石 製 品 (結晶片岩)	長方形	4.6	0.5	0.6	15.9	両面穿孔
27	文京 (第10次)	SB-1	石 製 品 (緑色片岩)	長方形	5.2	1.2	—	(18.3)	未製品
28	長尾	2号住居	石 製 品 (石英粗面岩)	長方形	4.9	0.7	0.8	25.7	
29	文京 (第10次)	SB-1	石 製 品 (緑色片岩)	長方形	5.5	0.5	—	27.5	未製品
30	松山大学構内 (第3次)	SR-1	転 用 品	長方形	4.9	0.5	0.4		
31	文京 (第10次)	暗茶褐色土上層	土 製 品	紡錘形	4.6	1.2	0.8	28.4	
32	朝倉南甲	6号住居	土 製 品	長方形	5.6	1.0	1.0	(30.0)	焼成前穿孔
33	久米窪田V	2号住居	土 製 品	長方形	4.0	2.9	0.7		焼成前穿孔
34	松山大学構内 (第2次)	SB-7	土 製 品	長方形	4.7	1.1	0.7	21.1	
35	松山大学構内 (第2次)	SB-7	土 製 品	長方形	5.5	1.1	0.7	42.3	焼成前穿孔
36	拾町Ⅱ	第5号住居址	土 製 品	長方形	5.0	0.9	0.7		
37	松山大学構内 (第2次)	SB-7	土 製 品	長方形	4.4	0.8	0.7	21	焼成前穿孔
38	松山大学構内 (第3次)	SR-2 (1区P30)	土 製 品	長方形	5.3	0.8	—		1/4残存
39	東本遺跡 (4次4区)	SB-403	土 製 品	長方形	6.1	1.3	0.7	26.7	焼成前穿孔
40	筋違F	SB-5	土 製 品	長方形	4.2	0.8	0.7		焼成前穿孔
41	松山大学構内 (第3次)	SR-2 (6区)	土 製 品	長方形	4.5	1.2	0.7		
42	文京 (第10次)	暗茶褐色土 C 6	石 製 品 (緑色片岩)	長方形	5.0	0.7	0.6~0.9	(13.8)	
43	松山大学構内 (第2次)	SB-7	石 製 品 (頁 岩)	長方形	5.6	0.7	0.6	41.6	
44	東本遺跡 (4次3区)		土 製 品	長方形	7.0	1.1	0.6	35.1	焼成前穿孔
45	桑原田中	包含層	土 製 品	紡錘形	3.7	1.2	0.6	16.9	焼成前穿孔
46	出作遺跡	SX-01	土 製 品	台形状	2.2~4.4	1.3	0.5		
47	筋違H	SB-2	土 製 品	長方形	4.8	1.1	1.0		焼成前穿孔
48	出作遺跡	SX01-55	石 製 品 (蛇 文 岩)	台形状	3.9	0.6	0.6	18.6	
49	出作遺跡	SX01	石 製 品 (結晶片岩)	台形状	4.9	0.9	0.6	27.3	
50	谷町	V層	石 製 品 (緑色片岩)	台形状	4.4	0.8	0.6	23.9	
51	福音小学校 (2区)	SB-65	石 製 品 (結晶片岩)	台形状	3.3	0.6	0.5	10.2	
52	福音小学校 (3区)	SB-97	石 製 品 (結晶片岩)	台形状	5.5	0.5	0.8	41.7	
53	福音小学校 (2区)	SB-136	石 製 品 (結晶片岩)	台形状	3.1	0.5	0.6	11.0	
54	松山大学構内 (第3次)	第Ⅳ層	石 製 品 不 明	台形状	3.2	1.5	0.6	25.1	
55	来住Ⅵ	R11-12	石 製 品 (滑 岩)	台形状	3.4	1.3	0.8	20.2	鋸歯文を付す。
56	若草町 (第3次)		石 製 品 (結晶片岩)	台形状	3.0	1.2	0.6		
57	座拝坂	包含層	鉄 製 品	長方形	3.4	(0.5)	(0.4)	18.3	
58	松山大学構内 (第3次)	Ⅳ層	鉄 製 品	長方形	3.8	0.5	0.5		

時期		素材		転用品	土製品	石製品
弥生時代前期	前半	前葉	前	 <p>1~5は縄文 晩期終末から</p> <p>6は縄文晩期</p>	 <p>7, 8は縄文 晩期終末から</p>	
			中			
	後半	後葉	後			
			葉			
弥生時代中期	前半	前葉	前	 <p>9</p>		
			中			
	後半	後葉	中葉			
			後	 <p>22</p>	 <p>23, 24, 25, 26, 27, 28, 29</p>	

第69図 紡錘車集成図1

(S = 1 : 3)

時期		素材	転用品	土製品	石製品	
弥生時代後期	前	前葉			 	
	中	中葉		   		
	後	後葉		   		
	後半	後葉				
古墳時代	前	前期				
	中	中期			     	
	後	後期				

(S = 1 : 3)

第70図 紡錘車集成図2